

入浴編の説明予備資料

(スライド番号17)

入浴の福祉用具は以下のような種類があります。

- ①シャワーチェア: 洗体洗髪の際に座る椅子で35～40cm程度の高さ調節ができ、立ち上がり能力の低下した方が使用します。背付きや肘掛けの付いたもの、座面が回転するものなど種類も多いです。
- ②浴槽台: 浴槽内に沈めて設置し、浴槽内での立ち座りや浴槽への出入りを容易にします。
- ③手すり: 壁に設置するタイプがありますが、浴槽内の出入りを安全にする目的では、取り外しができる浴槽用手すりを設置します。
- ④滑り止めマット: 浴槽内に敷き、立ち上がる時の滑り止めと浴槽内で座った時の安定に役立ちます。洗い場での転倒予防で使う大きなタイプもあります。
- ⑤入浴リフト: 歩行や立位が困難な方に使用します。浴槽固定式や移動式、天井走行式などあります。

(スライド番号22)

- ①バスタオルを使うと、色々なストレッチができるので、入浴後の体操にお勧めです。
- ②体操やストレッチではなく、バスタオルで全身を擦ることで、乾布摩擦マッサージの効果が得られます。皮膚の動きが悪いと、体の柔軟性が低下したり、痛みが増強したりするため、しっかりと擦ってください。

(スライド番号31)

- ①就寝中に失う水分量は、汗と呼気による蒸発などで500～1000mlと言われている。